

# 聴く

新潟いのちの電話だより

2013.9

No.118



相談電話

**(025) 288-4343**

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

## 世にも不思議な物語～炉端の昔話～(1)

— 新潟いのちの電話が開局し30年目に入ったことを記念し  
萩屋マサ子元事務局長に寄稿してもらいました。—

「新潟いのちの電話」が30周年を迎えました。初代理事長の萩屋薫先生が亡くなって8年になろうとしています。一年中で一番寒い季節、毎年2月に数名のボランティアの人たちが集まって、理事長を「偲ぶ会」が持たれてきました。「偲ぶ会」では、いつも同じようになつかしい「いのちの電話」での沢山の出来ごとや忘れられない人たちとの出会いを、つい昨日のこのように話しています。毎回繰返し話される内容なのに、話す人たちの表情は、いつもいきいきとして、時間の経つのを忘れてしまいます。「偲ぶ会」の主人公萩屋先生そっちのけですが、半ばあきれ顔で優しく笑って見守ってくれているように思います。そんなときに、いつも出る話題は、設立当時の苦労話です。

1984年4月に開局した「新潟いのちの電話」を取り巻く社会状況は混乱し、こころを痛める出来ごとが報道されていました。そんな社会とあなたは、どう向き合うのかと問われて始められたのが、「心の問題を考えよう」とした学習会でした。当時、新潟県は全国第3位の自殺多発県と報じられました。学習会に参加した人たちの中から発起人が集まり、運営のための組織が作られました。資金も知識も経験もない状態でしたが、このままで良いのだろうか、何か出来ることはないのだろうか、気持ちだけが先行する出発でした。それからの運営スタッフの努力は大変なものでした。まず資金調達のため、個人の関係する企業や団体に協力を呼びかけ、ボランティア相談員の募集にはマスコミ各社の協力を得ながら、テレビ、ラジオ、新聞と広く呼びかけました。地元の手銀行や企業各社の協力は力強いものでした。考えられないほど多方面にわたる協力は、私にとっては信じられないくらい嬉しいことでした。

一人一人お名前をあげ、思いがけないエピソードを同時に話すことが出来たら、苦労話の実感や感謝の気持ちをお伝えすることができるのですが、全部お伝えできないのが残念です。

(元新潟いのちの電話事務局長 萩屋マサ子)

## ある日の相談室より

「私、悩んでいるんです・・・」声を出すと泣いてしまう。それを一生懸命に押さえながら、とぎれとぎれに話していく。

「今、高校2年生です。同級生からひどいじめにあっていて、学校に行くのがこわいんです。でも、心配をかけるのがもっと辛いので、お母さんにもお姉ちゃんにも相談できないんです。」

中学生の時に父親の暴力がひどくなった。夜、父親が荒れると、姉は友達のとこに逃げ出してしまふ。彼女は外に出て、一人で時間を過ごしたと言う。

家で苦しい時に、学校でいじめが始まり、完全不登校になってしまった。けれども、高校に行きたかった彼女は一生懸命に勉強して、高校に合格できた。

「私、がんばって、がんばって勉強したんです。合格して嬉しかったのに。それなのに、また、学校に行くのがこわくなったんです。また、行けなくなりそう。私、くやしい。生きるのが苦しい。死んでしまいたい」と話すと、こらえきれずにとうとう泣き出してしまった。

泣き終わり、気持ちが落ち着くと、また、話し始めた。

ずっと緊張しながら、懸命に生きてきた彼女の聞き取りにくい一言、一言を聞き逃さないように、耳を傾け話を聴いた。

「今まで誰にも話すことができなかったけれど、今日は辛くて、我慢できなくて電話をしました。まだ、家族や学校の先生には相談できそうもないけれど、今日話せたことでちょっとだけ勇気ができました。」

ほんの少しだけ明るい声で、電話は終わった。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)



## いのちの電話と自殺予防

渋谷志保子

「電話で話を聴くだけで自殺予防ができるとは思えない」と言われました。約30年前、新潟いのちの電話が開局したばかりの頃のことです。たしかに電話には限界があります。これまで実績を検証し、研修を重ね、メリット、デメリットを考え、休むことなく電話をとり続け、今、少しずつ社会の人々に認められつつあるというところでしょうか。

素人のボランティアが電話を受け、最悪の時を共に過ごす匿名の電話だから、かけ手は不安や劣等感を抱くことなく対話でき、深い人間的な出会いが生まれるのです。いつでも、どこからでも、誰でもかけられる電話だから危機にある人と即時に対話できるのです。よろず相談的な態勢は「いのちの電話」がどんな小さなことでも大切にするという姿勢の表れです。それはその小さなことが自殺の引き金になるかもしれないと考えたからです。

素人のボランティアでも、専門家の高度な知識に裏づけられた指導やアドバイスを受け、一回きりの出会いの重みを大切に、一番苦しい時を共に過ごし、苦しみ心に心を寄せることができれば、「もうすこし生きてみよう」と思う人もいるのではないかと私は思うのです。



(新潟いのちの電話理事)

毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は  
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。  
電話番号 0120-738-556

# お知らせ

## 新潟いのちの電話開局30周年

新潟いのちの電話は1984年(昭和59年)4月14日に開局し、今年で30年目に入りました。

長年のご支援に感謝して平成26年4月19日(土)に「開局30周年感謝のつどい」を開催することになりました。ただいま準備中です。詳細は後日お知らせします。

## 新潟いのちの電話～心の健康セミナー (新潟いのちの電話主催)

村上市、魚沼市は好評の内に終了しました。今後、3会場で開催します。どの会場も入場無料です。当日直接会場へおいください。

### 内容

- ・「津軽三味線 母竹育が語る史佳を「うつ」から立ち直らせた、母の支えと津軽三味線の響き」  
史佳 Fumiyoshi・高橋竹育
- ・「こころと葉の話」新潟いのちの電話理事長 及川紀久雄

### 〈五泉市〉

日時 9月28日(土) 13:30～  
会場 五泉市福祉会館

### 〈津南町〉

日時 10月23日(水) 14:00～  
会場 津南町文化センター

### 〈長岡市〉

日時 11月15日(金) 13:30～  
会場 栃尾産業交流センターおりなす

## チャリティーバザー(後援会主催)

日時 9月29日(日) 11:00～14:00  
会場 新潟市総合福祉会館  
2階 多目的ホール

当日販売用の日用品、雑貨、手作品などのご寄付が届いているところです。

みなさまに喜んでいただけるバザーになるように後援会の方々が中心になり、準備を進めてくださっています。ご来場をお待ちしています。

## 32期電話相談員養成講座

相談員の数が不足しています。

興味のある方は一緒に活動してみませんか。

お知り合いの方にもぜひお薦めください。

相談員募集については事務局にお問い合わせください。

申し込み期間 2013年12月1日～2月15日  
研修期間 2014年4月～翌年3月まで  
1年間

## 会費納入 ありがとうございます

活動を支えてくださっている方々の温かい支援に支えられ、電話相談を続けることができています。会費は大切に使用させていただきます。



2013年9月10日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニオンプラザ ハート館  
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677  
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp/>

## ことばの洪水

いま世界中の 億万のひとつが  
インターネットで ニュースや  
自分の経験や意見 それに気持ちや  
写真までも 伝えあっている  
いまだかつて こんなことはなかった

そして それがすべて  
ヴァーチャル (仮想) な画面経由で  
あっという間に 世界をことばの洪水で  
おおいつくしてしまっている

ひとがこんなに シャベリまくっていた時代が  
果たして あったのだろうか  
それとも いまのひとは 昔にくらべて  
話すべきことが 多いのか

ことばは 本来  
それで じぶんの感情をととのえ  
考えを整理し 話したあとの  
結果をも考慮して 語ったもの

それがいまは  
ネットで いいたい放題のことをいい  
気に入らなければ わめきちらす  
そんな風潮が 強まるばかり

救いがあるとすれば ただ一つ  
ほんとうに 語るべきことがあるまでは  
わが大口を閉ざしたまえと 祈ること